

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 10 月 23 日現在

機関番号：47201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00341

研究課題名（和文）日本近代・現代文学におけるイスラム表象研究

研究課題名（英文）Representation of Islam in Modern and Contemporary Japan literature

研究代表者

浦田 義和（Urata, Yoshikazu）

佐賀女子短期大学・その他部局等・客員教授

研究者番号：00151944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：日本近現代文学作品におけるイスラム表象には3つの特徴がある。第1は明治初期である。西洋に対抗するアジア主義的思想をもとにした、欧米に抑圧されているアジアやイスラム諸国への同情が顕著である。第2は明治大正時代である。日本作家の外遊が盛んになるにつれ、作家の紀行文には、古代文明への興味や近代におけるイスラム国家の衰退が表現されている。第3は、昭和の時代である。南方徴用作家において、アジアのイスラム諸国と積極的に関わることで、イスラムへの関心が高まっていった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代日本人にとってのイスラムは、異教であり、近寄りがたいという印象が一般的であると思われる。しかし、多文化共生の時代を迎え、否応なく、相当な宗教人口を持つイスラム理解が必要である。イスラムへの関心が近代日本において皆無であったわけではなく、戦前には、主にアジア主義という政治的理由で、一定の関心があった。敗戦に伴い、イスラム研究が、中断したままになっているといえる。近代・現代の文学作品において、イスラムはどのように表象されているかを検討することは、イスラム理解の一助となる。

研究成果の概要（英文）：Japan there are three characteristics of Islamic representation in modern and contemporary literary works.

The first is the early Meiji period. It is sympathy for Asia and Islamic countries that are being oppressed by the West. The second is the Meiji Taisho period. As a result of the Japan writer's travels, his travelogues expressed his interest in ancient civilizations and the decline of the Islamic state in modern times. The third is the Showa era. By actively engaging with Islamic countries in Asia, interest in Islam has grown.

研究分野：日本文学研究

キーワード：イスラム アジア主義 政治小説 千夜一夜物語 徳富蘆花 井伏鱒二 武田麟太郎 野上弥生子

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本近代現代文学とアジア・太平洋関係研究状況

日本近代・現代文学において、海外との関係の研究は、西欧を論外として、日本近代・現代文学とアジアとの関りについては、近年、ようやく盛んになり、かなりな程度の研究が行われるようになってきた。それは、このテーマの研究に関わる文献資料の復刻に支えられていると言っても過言ではない。「満洲」や「台湾」「朝鮮」さらには「南方」「南洋」という、いわゆる旧日本植民地関係復刻資料などが、ゆまに書房や緑陰書房、龍溪書舎、不二出版などの出版社より、続々と出版された。このような研究資料の充実によって、かなりな数の研究書や研究論文も刊行され、或いは日本近代文学学会や日本社会文学学会、昭和文学学会、比較文学学会など学会での口頭発表も飛躍的に増大している。植民地文化学会などの学会や台湾文学研究会などの研究会も組織されてきている。そのことに拍車をかけているのが、アジア諸国からの大学院留学生の一定数の定着である。中国からの留学生の主なテーマは「満洲文学」や「上海文学」であり、台湾や韓国からの留学生は「日本語文学」である。

(2) アジア関係研究状況

上記のような状況下で、以下のような研究成果が出ている。全般的なものとして、シリーズ『アジア遊学』(勉誠社)214冊(1999年以來)、学会誌「植民地文化研究」16号(2002年以來)などがあり、また、学会・研究会としては、国際芥川龍之介学会、国際石川啄木学会、国際村上春樹学会などがある。個別的な成果の一例として「満洲」については『満洲国文化細目』(西田勝他、不二出版)や岩波講座『近代日本と植民地』シリーズなどがあり、「台湾」については『日本統治期台湾文学研究文献目録』(緑陰書房)、『日本統治期台湾文学研究序説』(中島利郎、緑陰書房)、『よみがえる台湾文学』(藤井省三他、東方書店)などがある。また「朝鮮」に関しては『近代朝鮮文学における日本との関連様相』(大村益夫、緑陰書房)などがあり、「南方」に関しては『南方徴用作家—戦争と文学』(木村一信、神谷忠孝、世界思想社)などがあげられる。また、著者は、その研究の成果の一つとして科研費出版助成『占領と文学』法政大学出版局(2006)を刊行した。

(3) イスラム関係研究状況

日本近代現代文学とアジア・太平洋の関係に関する研究状況は、上記のように活況を呈していると言えるが、一方日本近代・現代文学とイスラム圏との関りについては、現在のところ、「南方」を除いて、ほとんど資料が流通していない状況である。南方に関する作品集については、上記の通り『南方徴用作家叢書』ジャワ編が一部準備されているが、マレー編は未だ刊行されていない。日本近現代文学とイスラムとの関りについて、従来の研究は、「明治政治小説研究」の一つとしての東海散士「佳人の奇遇」研究や「千夜一夜物語」研究、或いは「回教」研究という個別分野の研究に限られていて、巨視的総合的視野に立った研究は、ほとんど見られない。

2. 研究の目的

(1) テーマに関する研究資料として普及しているのは、小説・物語・紀行文に関しては『政治小説集』(新日本古典文学大系明治編 岩波書店)、『徳富蘆花集』(明治文学全集、筑摩書房)、『千一夜物語』(世界文学大系 岩波書店)、『千夜一夜物語パートン版』(国書刊行会)、『千夜一夜物語と中東文化』(東洋文庫、前嶋信次著、平凡社)、『南方徴用作家叢書』、『シルクロード紀行』(海外渡航記叢書、雄松堂)などがあり、ほかに地政学関係として大日本回教協会編の冊子全冊、文化・思想関係として『岩波講座 東洋思潮』全7冊や大川周明関係書籍、総合雑誌として復刻版『回教圏』(回教圏研究所)全8巻などである。以上のことから、資料のジャンルとしては、小説・物語、紀行文、地政学関係文献、文化・思想関係文献、宗教関係文献に分けられ、資料の対象地域としては、アジア、中東、アフリカということになる。つまり研究課題「日本近代・現代文学におけるイスラム表象研究」のための資料として、単に小説・物語文献資料のみではなく、紀行、文化・思想・宗教を含んだ文献をも意味するということである。これらの資料を収集し、分析して、日本近代・現代文学における総合的なイスラム表象の傾向と歴史の変遷過程を提出するというのが本研究の目的である。

(2) 本研究の独自性は、これまでの文学研究において、千夜一夜物語研究の物語研究の観点、明治政治小説研究におけるアジア・中東諸国の西洋植民地からの独立という観点、南方徴用作家研究における日本占領下のアジアの観点という主題重視の観点を、地域別に組み替え、そのうえで、それぞれの地域的、時代的特性を明らかにすることで、全体像を俯瞰することにある。具体的に述べれば、日本近現代文学とエジプト・中東、日本近現代文学と東南アジアという項を立てて資料を収集し、分析することで、地域的特徴を浮き彫りにする。

3. 研究の方法

(1) エジプト・中東に関する海外巡検及び文献資料・情報収集

複数回にわたって、エジプト・カイロで開催された国際シンポジウムに参加し、研究成果を

発表するとともに、中東地域の研究者の発表から情報を収集する。また、カイロだけでなく日本人作家・紀行家が訪問し作品に描かれたエジプト各地の巡検を行い、西洋のオリエンタリズムと関わる重要な地域であるトルコの巡検を実施する。

一方、国内研究機関の日本近代文学館、国際日本文化研究センター、沖縄県立公文書館などでエジプト・中東の「回教」に関わる戦前資料等を収集するとともに、日本国内学会の日本社会文学会、日本近代文学会などに参加し、研究成果を発表するとともに、日本各地の研究者の発表から、情報収集、資料収集を実施する。

巡検の結果や収集した情報・資料を基に作品分析を行う。作品分析については、明治期の政治小説である東海散士の「佳人の奇遇」や徳富蘇峰の紀行文、野上弥生子の紀行文、更には外交官笠間泉雄や地理学者志賀重昂などの紀行文、歴史家 比屋根安定などの著作について、戦前戦中の「回教」関係資料を参照しながら分析を行う。

(2) 東南アジア、中国に関する海外巡検及び文献資料・情報収集

戦中、日本作家が南方徴用作家として訪問したマレーシア、ペナン島を巡検し、作品の背景を探る。また、内蒙古の回教寺院を訪問し、中国で開かれる国際学会で研究成果を発表するとともに各地の研究者の発表から情報収集する。

エジプト・中東と同様に、国内研究機関の日本近代文学館、国際日本文化研究センター、沖縄県立公文書館などで東南アジア・中国の「回教」に関わる戦前資料等を収集するとともに、日本国内学会の日本社会文学会、日本近代文学会などに参加し、研究成果を発表するとともに、日本各地の研究者の発表から、情報収集、資料収集を実施する。

巡検の結果や収集した情報・資料を基に作品分析を行う。作品分析については、シンガポールでの井伏鱒二の作品や寺崎浩・武田麟太郎などのジャワ表象を抽出する。

4. 研究成果

(1) 国際シンポジウム発表

2018年9月カイロ大学での「明治以降の日本の経験から学ぶ」において「Modern literature of okinawa which opposes japan and U.S」発表。

2020年3月カイロ大学での「非西欧化社会の近代化再考」において「西洋のオリエンタリズムと日本のアジア主義」発表

2023年3月エジプト日本研究会での「日本近代文学とイスラーム」発表

(2) 国内学会発表

2019年11月、日本社会文学会での「日本近代文学に表象されたイスラーム」発表

2022年6月日本近代文学会九州支部での「日本近代文学とイスラーム」発表

(3) 論文

2020年11月、久留米大学比較文化研究所紀要「比較文化研究56輯」に「オリエンタリズムとアジア主義」発表

(4) 編著

2018年1月、カイロ大学文学部日本研究所、久留米大学比較文化研究所共同編集「日本学研究所創設記念シンポジウム「非西欧化社会の近代化再考：日本とエジプト(アラブ)の場合」『比較文化研究第53輯』編集

2019年2月、呉京煥、劉建輝編『日本浪漫派とアジア』に「神保光太郎とアジア」分担執筆

2019年2月、児玉昌己、伊佐淳編『アジアの国際協力と地域共同体を考える』に「日本近代文学とアジア・太平洋」分担執筆

2020年11月カイロ大学文学部日本語日文学科、久留米大学比較文化研究所共同編集、シンポジウム「非西欧化社会の近代化再考：エジプト(アラブ)と日本(東アジア)の場合」『比較文化研究第56輯』編集

(5) 講演

2019年10月熊本県宇土市における「エジプトの社会と文化」

2020年9月筑後河水域研究会における「日本とエジプトの研究交流」

(6) 公開講座

2018年10月久留米大学公開講座「日本におけるイスラームの存在」

2020年9月久留米大学公開講座「西洋のオリエンタリズムと日本のアジア主義」

2020年11月久留米大学公開講座「南方徴用作家とイスラーム(アジア地域)」

2020年11月久留米大学公開講座「オリエンタリズムとアジア主義(中東地域)」

2022年9月久留米大学公開講座「オリエンタリズムとアジア主義」

2022年9月久留米大学公開講座「日本近代文学作品に表象されたイスラーム」

2023年9月久留米大学公開講座「日本の紀行文に見るイスラーム」

2023年9月久留米大学公開講座「日本文学作家作品に見るイスラーム」

(7) 学外団体提供講座

2020年10月、One Asia 財団「アジアの現状と地域共同体・地域協力の可能性」講座「アジア主義」

2021年9月 One Asia 財団「アジアの現状と地域共同体・地域協力の可能性」講座「西洋のアジア幻想と日本のアジア主義」

- 2021年9月、One Asia財団「アジアの現状と地域共同体・地域協力の可能性」講座「日本近代作家とイスラーム」
- 2021年12月、One Asia財団「アジアの現状と地域共同体・地域協力の可能性」講座「日本近代文学とイスラーム」
- (8) 国際交流基金派遣教授
2022年2月 3月カイロ大学文学部「日本近代文学」
- (9) 招待講演実施
2019年6月カイロ大学教授・ワリード・イブラヒム「アラブ文化、イスラム文化」久留米大学比較文化研究所
- 2021年9月カイロ大学名誉教授アハマド・ラハミー「戦中に日本を生き抜くエジプト人少年の物語」久留米大学比較文化研究所
- 2021年10月久留米大学法学部教授古賀幸久「アフガニスタン問題の理解と対応」久留米大学比較文化研究所
- 2021年10月久留米大学文学部准教授神本修爾「レゲエとラスタファリ思想」久留米大学比較文化研究所

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 浦田義和	4. 巻 48
2. 論文標題 檀一雄・戦時詩の一特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近代文学論集	6. 最初と最後の頁 55, 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浦田義和	4. 巻 103
2. 論文標題 沖縄のハンセン病文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学誌要（法政大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 53 - 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浦田義和	4. 巻 54
2. 論文標題 檀一雄試論－日本浪漫派の〈戦争〉体験	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 126 - 139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浦田義和	4. 巻 14号
2. 論文標題 沖縄のハンセン病文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化冊子 草茫茫通信	6. 最初と最後の頁 170－178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦田義和	4. 巻 56輯
2. 論文標題 オリエンタリズムとアジア主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文化研究(久留米大学)	6. 最初と最後の頁 235-252
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浦田義和	4. 巻 103号
2. 論文標題 沖縄のハンセン病文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学誌要(法政大学)	6. 最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浦田義和	4. 巻 13
2. 論文標題 ひめゆりの塔	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 草莽々通信	6. 最初と最後の頁 230 - 238
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件(うち招待講演 5件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本近代文学とイスラーム
3. 学会等名 日本近代文学会九州支部
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本近代文学とイスラーム
3. 学会等名 エジプト日本研究会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 檀一雄・戦時詩の一特徴－「従軍手帖」を参照して
3. 学会等名 日本近代文学会九州支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 エジプトの大学との学术交流
3. 学会等名 筑後河水域圏研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本近代文学とイスラーム
3. 学会等名 久留米大学公開講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 檀一雄と太宰治
3. 学会等名 福岡市文学館講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 戦時下の檀一雄
3. 学会等名 福岡市文学館（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本近代文学とイスラーム
3. 学会等名 久留米大学比較文化研究所地中海研究部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本近代文学に表象されたイスラーム
3. 学会等名 日本社会文学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 西洋のオリエンタリズムと日本のアジア主義
3. 学会等名 カイロ大学主催シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 プロレタリア作家の日中戦争従軍随筆
3. 学会等名 中国日本文学研究会第16届年会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 日本・アメリカを異化する沖縄の近代文学
3. 学会等名 カイロ大学文学部日本研究センター国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浦田義和
2. 発表標題 幻想の可能性・不可能性
3. 学会等名 日本社会文学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 吳京煥、劉建輝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 184
3. 書名 日本浪漫派とアジア	

1. 著者名 児玉昌己、伊佐淳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 芦書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 アジアの国際協力と地域共同体を考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------